

4. 1 建設副産物情報交換システムの操作の流れ

建設副産物窓口担当者は、排出事業者が登録した工事情報の内容確認、施設情報、および調査価格情報の検索をすることができます。

また、登録されたデータの提出用ファイル・工事リスト、チェックリストの出力、CREDAS入力システム（廃止）で作成された提出用ファイルのチェックリストの出力・および本システムへの登録、重複データのチェック・削除、建設リサイクル関連様式の登録の集計を行うことができます。

: 必須、 : 任意

① システムへログイン

インターネットから本システムへログインしてください。

【4. 2「建設副産物情報交換システムの起動方法」参照】



② 工事情報の登録

工事情報の登録は原則として排出事業者が行いますが、排出事業者が利用できない場合などには、排出事業者に代わって工事情報を登録することができます。

【5「情報を入力する」参照】



③ 登録済み情報の検索・閲覧・印刷

本システムに登録されている工事情報、処理施設情報、調査価格情報を検索し、登録内容を閲覧・印刷（PDFファイルのダウンロード）することができます。

【6「情報を検索する」参照】



④ 工事リスト、チェックリストの確認

本システムに登録されている担当機関の登録データについて、工事リストを出力し、データ登録に漏れがないか確認してください。また、チェックリストを出力し、間違いが無いかどうか確認してください。

【7. 2「工事リストを作成する」参照】

【8「チェックリストを作成する」参照】

本システムにはその他、以下の機能があります。必要に応じてご利用ください。

⑥ 提出用ファイルの作成

本システムに登録された建設リサイクル関連様式の登録情報について、提出用ファイルを作成することができます。

【7. 1「提出用ファイルを作成する」参照】

⑦ CREDAS 入力システム提出用ファイルのチェック・登録

CREDAS 入力システム（廃止）で作成された提出用ファイルについてチェックリストを出力することができます。また、必要に応じて本システムに登録することができます。

【9「CREDAS 入力システムチェックリストを作成・提出用ファイルを登録する」参照】

⑧ 重複データのチェック・削除

必要に応じて、本システムに登録した工事データ中から重複していると思われる工事データを検索することができます。重複データがあった場合は、削除を行うことができます。

【10「重複データをチェック、削除する」参照】

⑨ 集計対象機関の発注工事の集計

必要に応じて、集計対象機関が発注した工事について、登録状況やリサイクル率等の単純集計を行うことができます。

【11「登録情報を集計する」参照】